

鴨 台 社 事 通 信

パンデミックと福祉課題に向き合うこと

本学の学部再編によって人間学部から「社会共生学部」に衣替えした今年度、本学会・副会長の高橋一弘教授が退任されます。この転換期に新型コロナウイルス（COVID-19）のパンデミックによって我が国も危機的な状況が今もって続いています。奇しくも本研究室の開室 100 年前にはスペイン風邪の猛威に苛まれたという。その当時を思い起しながら感染症や自然災害と対峙してきた先人たちの闘いの歴史からも学んでいる今、私たちは、新たな防災（減災）や福祉対策に取り組むといった福祉課題と向き合う時代を迎えています。

第 44 回大会は、COVID-19 の全国的な蔓延と首都圏域の行動変容が求められ、オンラインによる高橋教授「最終講義」とともに、シンポジウム「ソーシャルワーク実習（学内実習プログラム）」による新たな実習教育のあり方に焦点を当てて開催します。その学内実習を担う本学出身の実習指導講師を中心にした実習先機関・施設の実習指導者と実習指導教職員と学生との協働による挑戦的な取り組みを公開の場で検証し合います。そして、次世代を担うソーシャルワーカー育成に尽力している多くの福祉現場における取り組みをも共有し合います。

まさに全国各地で活躍する会員諸兄姉と共に考える好機と捉え直し、安全で安心な社会共生の地域づくりを話し合える機会にしませんか。そして、社会共生理念による福祉教育 100 年を継承するソーシャルワーク教育の近未来を描き出し、ポスト・コロナ社会を果敢に担えるような人財育成をめざしている本学会ならではのプラットフォームになるよう願っています。

2020 年 11 月 25 日

大正大学社会福祉学会・会長 石川 到覚

大正大学社会福祉学会 第 44 回大会のご案内

◎日程:2021(令和 2)年 2 月 23 日(火)14 時より 17 時までのオンライン開催

◎大会テーマ「安全で安心な社会共生の地域づくりに向けた福祉課題」

○ 高橋教授最終講義「児童家庭福祉による地域づくり」

○ シンポジウム「新型コロナウイルス禍と実習教育のあり方」

* コーディネーター：新保祐光（実習指導室長）

* シンポジスト：工藤正樹（石川ゼミ卒、高齢者施設長、実習指導講師）

* 同：赤瀬正樹（高橋ゼミ卒、児童養護施設職員、実習指導講師）

* 同：倉石智穂（新保ゼミ卒、MSW、実習指導者）

* 同：鈴木篤史（坂本ゼミ卒、PSW、実習指導者）

* 指 定 発 言 者：学内実習プログラム担当の実習指導講師や実習指導者等

○ 総会・情報交換会

参加方法：オンライン大会に参加される方は、本通信「奥付」大正大学社会福祉学研究室ホームページのQRコードから閲覧のうえ、事務局のEメール宛に **2021年1月29日(金)**までご返信ください。大会 2 週間前には「オンライン招待メール」をお送りします。

ソーシャルワーク教育 100 年を超えて

— 新たな社会と向き合う伝統の継承 —

100 年という長い期間、教育を継承するのは難しい。時代に影響されて変わらざるを得ないことも多くあるからである。学会の起源となった大正時代はこれから第二次世界大戦へと向かうところであり、今と国内外の情勢は全く異なる。その後も、戦後復興期、高度経済成長、バブル経済の進展と崩壊、そして低成長時代へと、めまぐるしく社会は変わってきた。それに応じ、教育も何度も形は変えてきた。

そして今年の新型コロナウィルスの蔓延である。「ロックダウン」「ソーシャルディスタンス」「オンライン」等、私たちは新たな生活様式を半ば強制的に受け入れることとなった。このような状況下でソーシャルワーク実習をどうするかが大きな課題となった。現場に行き、いろいろな人々に直接関わることで学ぶ、新たな生活様式（前述のカタカナ三つ）の対極にある学びの様式だからである。

ソーシャルワーク実習をどうしようかと考えあぐねていたときに、ふと「大正大学の伝統を継承するソーシャルワーク教育とは何か」と問い直してみた。時代の変化とともに変わったものと変わらないもの・・・そして大正学派の 100 年史を振り返ってみた。

本学は仏教系で保守的に見えるかもしれない。だがそんなことはない。変わらぬ伝統として、新たな時代へ向けてアグレッシブに向き合ってきた。大正時代という国際情勢が難しいなかで、渡辺海旭も矢吹慶輝も長谷川良信も欧米で学んでいる。自らの立場や社会状況と対峙して、新たな社会と向き合うためには何が必要かを考えた結果であろう。

その後もソーシャルワーカーが資格化されるなかで、養成課程の設置だけでなく現任者の教育を重視した大学院の設置、核家族化が進み地域機能が衰退するなかでの「大正さろん」という地域の拠点作り、国際化に備えた海外の大学との積極的な交流など、社会に合わせるのではなく、これからの社会と向き合い、そして作り上げることを意図して展開してきた。

では今、我々は何をすべきか。社会の ICT (Information and Communication Technology) 化は、新型コロナ以前から始まっている。それは政策動向としても明確に出ている。それが新型コロナによって急激に進んだだけである。ICT は、情報とコミュニケーションの技術であり、ソーシャルワークの中核である相談支援の質を向上させる可能性はかなり高い。本学の伝統を踏まえれば、ICT 化の進む新たな社会と向き合い、ICT を有効に活用する専門職養成のあり方を考えていくべきである。あるお役所のように「対面」にこだわる現状維持的な教育を超えて、新たな教育を創造することが本学の伝統である。ただし、新たな社会と向き合うのは、大変に難しく労力もいる。そのために会員の皆様には、是非ともご支援をいただく機会として今回の大会を考えている。どうぞご協力のほどお願い申し上げます。

実習指導室長 新保 祐光

大正大学社会福祉学研究室
ホームページ・QRコード：
<http://ohdai-sw.com/index.html>



大正大学社会福祉学会事務局

〒170-8470 東京都豊島区西巢鴨 3-20-1

大正大学 社会福祉学科事務室内

TEL 03-3918-7311 [内線 5770]

FAX 03-5394-3057

MAIL info@tais-shafuku.sakura.ne.jp

事務局長：熊澤 利和 学会事務：赤坂 真樹



学会マスコット

ぷくまる